

新聞記事からみた中越盲啞学校

佐藤 聖

あらまし：明治後期～大正時代に新潟県柏崎市に実在した「中越盲啞学校」に纏わる新聞記事を精力的に収集してきた。それをもとに整理する。

1. はじめに

「中越盲啞学校」に関心を持ったきっかけは次の理由からである。明治・大正時代の聾教育に関する資料に「中越盲啞学校」が度々登場することに目を疑った。現在はもう「中越盲啞学校」の史実を知っている人々が少なくなっており、調査が難航している有様である。更なる研究の必要性を痛感している。

2. 方法

柏崎市立図書館にローカル紙「越後タイムス」が所蔵されているので、記事の有無を調査した。期間特定は1923年（大正12年）以前を限定した。生憎、欠号が多くあって残念。

3. 結果

「宮川文平」「宮川久平」がよく登場されているので、除外した。他に「聾」「啞」「盲」等の記事もあったが、ここに紹介しない。

記事は34件あり、見出しを次に挙げる。印刷に不鮮明なところがあり、判読しにくいところがあるので、ご理解を頂きた

い。そして重要な記事だけ、全文引用する。

大正1年12月1日	中越盲啞学校補助
大正2年3月16日	盲啞学校生徒募集
大正2年7月13日	盲啞学校教員
大正2年9月28日	盲啞学校記念式
大正2年9月28日	盲啞学校明渡し請求
大正2年9月28日	柏崎の聯隊司令部跡
大正2年10月5日	盲啞学校の状況

中越盲啞学校は明治三十九年十月一日の創立にして、大正二年九月末日にて満七年を経過せり。

▲経費は満七年間にて左の如し。

県郡町村補助	一七五四圓
有志寄附経営者負担	四〇一三圓
合計	五七七六圓

▲創立費は大枚二拾二圓にして、七圓二宮傳右衛門、五圓加藤照次、五圓吉田孝太郎、五圓今井茂作なるが、半ヶ年間無利息にて借用し、半ヶ年後返済せり。

▲生徒は創立以来三十九名、其内鍼治試験に合格せし者六名あり。

▲予算 大正三年度の経費予算は一千四百十二圓なり。

▲学友会 盲生間に学友会あり。点字雑

誌『盲の友』を明治四十五年十月より四十四年九月迄年に四回づつ発行し来りしが、明治四十四年十月よりは毎月一回づつ発行し去月二十八号を發刊せり。

大正3年2月15日 盲啞学校表彰さる
大正3年3月8日 盲啞学校演芸会
大正3年4月26日 盲啞学校売れる
大正3年12月13日 中越盲啞学校補助費
大正5年2月6日 盲啞校費補助
大正5年5月7日 盲啞学校補助
大正5年6月4日 盲啞協議会
大正5年6月18日 盲啞の数
大正5年6月18日 盲啞学校会議
大正6年3月25日 盲啞学校卒業式
大正6年5月13日 点字図書寄贈
大正6年6月17日 盲啞学校へ寄附
大正6年11月3日 盲啞教育品之部
大正7年3月31日 盲啞学校卒業式
大正7年8月18日 柏崎の盲啞講演
大正8年2月23日 本郡の盲啞
大正8年2月23日 警官盲啞校視察
大正8年3月30日 中越盲啞学校選奨
大正8年5月11日 盲啞学校へ寄付
大正9年2月15日 中越盲啞学校選奨
大正9年3月28日 中越盲啞校卒業式
大正10年3月27日 盲啞学校に寄付
大正10年9月18日 盲啞学校寄付
大正10年10月9日 盲啞校記念式

盲啞校記念式

去一日柏崎町私立中越盲啞学校にては創立十五週年記念日に相当せるを以て謝恩会を開き創立当時よりの勤続者姉崎惣十郎平野藤太郎氏及び創立以来の功勞者なる柏崎田圃（比角村地内）山田庄吉氏

に記念品鉄瓶各一個を贈呈し尚創立当時の功勞者にて故人となりし三島源輔桑山直二郎兩氏の佛壇に香華を手向け靈牌に參拜する處ありたりと

大正10年10月16日 記念品の寄贈を受けて

記念品の寄贈を受けて 平野藤太郎

▲十月一日我中越盲啞学校が創立滿十五週年に当り予等又勤続十五週年を経しとて卒業生並現在生一同にて謝恩会を開きて創業功勞者山田庄吉氏及姉崎惣十郎氏と予には勤続の廉を以て鉄瓶（箱付）一ケの寄贈を受く。前者は問はず予は毛頭も之に当り居らず甚だ汗顔の至りに堪へざる也。

▲抑々我校が明治三十九年十月一日創立せらるるや、予の如きは僅かに二十歳の秋にして所謂青二才の分際なり、更に特殊教育者たる素質を備へるにあらざりして唯々一時の好奇的心理に促されしのみ。然るに宮川、三嶋の兩師を始め同情ある数仁の不斷の援護を受け幸に茲に至れり、素より予が独力にあらざる事を明らかにす。

▲我国盲啞教育創始せられて既に四十四年、最長年月の勤続者としては東京聾啞学校長小西信八先生なり、明治十九年一月二十三日就職以来三十五年八ヶ月に涉りぬ。

▲此間先生の偉業功績は一々枚挙に遑あらず、予等何等の経歴なく識見なく徳望なく徒らに斯界に留り居るは却って流職の虞なしとせず、日夜痛心一方ならざる處、茲に創立当時の卒業者新澤澤吉、飛田啓次郎、梅澤初太郎、赤澤助太郎の四君卒先發起人となり、書を

東西に飛ばして普ねく勸説し、斯くも貴重なる記念品を贈らる。此間四君寢食を排して其勞を取られたるを聞き、感涙禁じ難し、予其志を嘉し其行を賞せざるを得ず。

▲世には師道すたれ、子分全ふせられざる中に、四君が善くも予の如き薄徳非才何等奉公の擢んすべき跡なきにも拘はず、前者同様に遇せられるは返す返すも感謝の念に堪へざるものなり

▲而かも四君は本春宮川先生還曆祝賀会にも發起人となり多くの勞を惜まざりき、重ね重ねの美学世上に顕

はれて其香ひ菊の如く、又蘭の如けん。

▲吁四君よ我盲界の前途は尚ほ遼遠なり、郷等自愛自重斯界の木鐸として又我校出身の模範者として後進者を率いられん事を切に希望する處なり。予が心中喜悦の情を披瀝し一言書して郷等の厚意を深謝す。

大正12年 3月18日 中越盲啞学校閉鎖
中越盲啞学校閉鎖

中越盲啞学校にては来る二十七日午前十時より同校に於て愈々閉校式を挙行し尚郡内盲啞生の同情後援をなすべく之が後援会の発会式をも併行すべしといふ

大正12年 4月 1日 盲啞校閉校式
盲啞校閉校式

去る明治卅九年十月一日開校したる中越盲啞学校は今回新潟及長岡に県立盲啞学校設立されたるを以て閉校する事とし去る廿七日午前十一時より学校内に於て閉校式及教師の勤勞表彰式を行ひ、創立当時より十六ヶ年六ヶ月の間勤続したる

平野藤太郎、姉崎惣十郎両氏に慰勞表彰金（各三百圓宛）を贈呈し、宮川校長は郡内盲啞者後援会創設に就て会則を議定し、閉校後、在校生は階下にて茶話会を催し来賓其の他は一二三樓に於て午餐会に列したり

この調査を通して判明したことが多く、疑問も増えたので、今後も多角的に解析に頑張りたいと思う。

4. 課題

柏崎市立図書館にローカル紙「柏崎日報」が所蔵されているので、これから着手したいと思う。

5. 謝辞

柏崎市立図書館の皆さんに本当にお世話になりました。心から御礼を申し上げます。

参考文献

越後タイムス 大正1年12月1日
越後タイムス 大正2年3月16日
越後タイムス 大正2年7月13日
越後タイムス 大正2年9月28日
越後タイムス 大正2年10月5日
越後タイムス 大正3年2月15日
越後タイムス 大正3年3月8日
越後タイムス 大正3年4月26日
越後タイムス 大正3年12月13日
越後タイムス 大正5年2月6日
越後タイムス 大正5年5月7日
越後タイムス 大正5年6月4日
越後タイムス 大正5年6月18日
越後タイムス 大正6年3月25日
越後タイムス 大正6年5月13日
越後タイムス 大正6年6月17日
越後タイムス 大正6年11月3日
越後タイムス 大正7年3月31日

越後タイムス 大正7年8月18日
越後タイムス 大正8年2月23日
越後タイムス 大正8年3月30日
越後タイムス 大正8年5月11日
越後タイムス 大正9年2月15日
越後タイムス 大正9年3月28日
越後タイムス 大正10年3月27日
越後タイムス 大正10年9月18日
越後タイムス 大正10年10月9日
越後タイムス 大正10年10月16日
越後タイムス 大正12年3月18日
越後タイムス 大正12年4月1日